

7.

文献収集と公開・史料 電子化・ウェブ発信

- 1) 文献・資料の収集と公開
- 2) IGS 史料電子化プロジェクト
- 3) ウェブサイト等での情報発信

1) 文献・資料の収集と公開

ジェンダー研究の知の基盤の一層の充実を図る

ジェンダー研究所は、1975 年創立の「女性文化資料館」時代から今日に至るまで 40 年以上にわたり、女性学・ジェンダー研究の文献・資料の収集を絶え間なく続けてきた。女性に関する膨大な知の集積ともいえる蔵書は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外から OPAC（Online Public Access Catalog）で検索でき、手続きを経れば学外の者も利用可能である。

2022 年度も、寄贈・購入の多数の文献・資料を収集することができた。一方で、学内で重複所蔵している雑誌については、重複先の欠号分を相手機関に提供したうえで処分し、配架場所の確保を進めた。また、古い貴重資料を保管しているキャビネットの入替や、既存資料のファイリングなどの再整備を進め、利用者の利便性の向上につとめた。

■附属図書館専用書架での蔵書貸出・閲覧

ジェンダー研究所蔵文献（書籍約 25,000 冊、雑誌約 340 種）は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外の学生や研究者に利用されている。

《図書館利用案内》

○開館日

- ・月～金 8:45～21:00 （授業のない日は 17:00 まで）
- ・土 9:00～17:00 （夏・冬・春期休業期間中は閉館）
- ・日 12:00～17:00

○閉館日

- ・日曜日、国民の祝日、年末年始、大学夏季一斉休業日
- ・夏・冬・春期休業期間中の土曜日
- ・蔵書点検
- ・徽音祭当日、創立記念日、入学試験日当日、卒業式

※最新情報は附属図書館ウェブサイト (<https://www.lib.ocha.ac.jp/>) を参照。



■蔵書・研究者に関する情報提供

附属図書館収蔵文献・資料のほかに、ジェンダー研究所内にて、購入雑誌・寄贈雑誌の最新号、研究所の過去の成果刊行物、事業の記録、所属研究者執筆の書籍のほか、全国のジェンダー研究施設や男女共同参画団体の定期刊行物を閲覧することができる。

資料閲覧対応のほか、研究者及びジェンダーに関心を持つ方々に、これらの文献や資料、研究所に蓄積された知識を広く活用してもらうため、メールや電話による外部からの問い合わせ、訪問依頼にも随時対応している。

■お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでの資料公開

<http://archives.cf.ocha.ac.jp/>

お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでは、本学を卒業し、女性の先駆的研究者として活躍した保井コノ、黒田チカ、湯浅年子、辻村みちよの研究業績をまとめた資料目録などが公開されている。

これらの資料は、女性文化資料館時代の1981年の文部省特定研究「女性高等教育とその成果に関する総合的研究」における2つのプロジェクト、「III 婦人研究者の活動状況に関する調査研究—自然科学分野を中心に—」「IV 女性文化に関する文献・資料の収集及び調査研究」の中で、それぞれのご遺族の協力を得て収集した遺品のうち、研究関連のものを整理し、長い時間を掛けて目録化したものである。

目録化は本研究所の前身機関のプロジェクト成果であるが、これを大学の歴史資産として広く公開するよう、2007～2009年にデジタルアーカイブズ化された。現在、資料現物は理学部内に設置された「女性科学者資料室」で保管され、本学図書・情報課 大学資料担当（shiryo@cc.ocha.ac.jp）が窓口となって資料閲覧や貸出等の依頼に応じている。



2) IGS 史料電子化プロジェクト

ジェンダー研究所は2017年度に、「IGS 史料電子化プロジェクト」を始動した。ジェンダー研究所の前身であるジェンダー研究センター（1996年設立）、女性文化研究センター（1986年設立）、女性文化資料館（1975年設立）において、所属の研究者たちが企画開催してきた研究会やセミナー、国際シンポジウム等のイベントの記録・資料を電子化し、「IGS デジタルアーカイブ」として後世に残すことで、ジェンダー研究のさらなる発展に寄与することを目的とするプロジェクトである。

5年目を迎えた2021年度は、デジタルアーカイブを実際にデータベースとして活用できるものにするために、メタデータ（電子化した個別のデータについてのデータ）の構築に着手した。

■ 電子化済イベント件数

女性文化資料館時代と女性文化研究センター時代に開催されたイベントの記録は、主にカセットテープに録音された音声である。そのほかに、写真（ネガフィルムと紙焼き）と、印刷物や手書きの資料・記録等の紙媒体の史料が残されている。2017年度以来これらアナログデータの調査を進め、バラバラに保管されていた史料を過去の彙報などを参考に整理していく作業と、それと並行して個別のアナログデータをデジタルデータへと変換する電子化作業を進めてきた。2022年12月現在の電子化済イベント件数は【表1】の通りである。

【表1】電子化済イベント件数（※1,2）

時期 (年度)	組織名	イベント 件数	電子化済イベント件数			
			ドキュメント (PDF)	画像 (JPEG)	音声 (mp3)	動画 (mp4)
1975-1985	女性文化資料館	75			54	
1986-1995	女性文化研究センター	137	1	23	85	
1996-2014	ジェンダー研究センター	211	4	91	101	37
2015-2021	ジェンダー研究所	130	130	130	100	30
合計		553	135	244	340	67

※1) 現在も調査中のため、イベント件数は今後増える見込

※2) 女性文化資料館時代と女性文化研究センター時代のイベント一覧は本報告書 105～109 頁参照

■ メタデータの構築

「IGS デジタルアーカイブ」をデータベースとして活用できるように、メタデータの構築に着手した。電子化した個別のイベントが、どのようなテーマで企画開催されたものであるのかを端的に明らかにするために、メタデータの Kategorii のひとつとして「テーマ領域」を設定することとした。将来、ジェンダーの研究者がデータベースを検索する際の利便性を考慮し、電子化済イベントのテーマ領域を順次分類していく予定である。

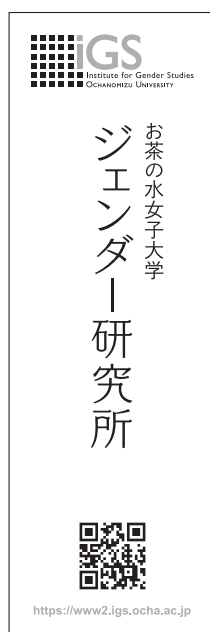
3) ウェブサイト等での情報発信

ウェブサイト全体の情報整理に加え、葉を制作

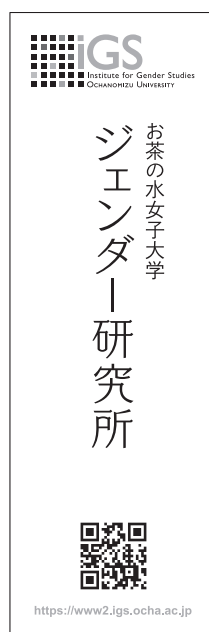
昨年度に引き続き 2022 年度は、ウェブサイト全体の情報整理と英語発信の強化を進めた。日本語ページは、『AIT 国際交流ワークショップ 20 周年記念報告書』の発行に伴い、「AIT 国際交流ワークショップ・プログラム」の特設ページを作成した。トップページにバナーを用意し、国際交流事業の情報・成果へ辿り着きやすいよう整備を進めた。英語ページでは、不足していたイベント情報や開催報告の掲載作業を行なった。さらに、イベント情報の配信に特化したメーリングリストの作成や、Twitter によるイベント告知・リマインド、YouTube によるシンポジウムのオンデマンド配信等、ソーシャルメディアを利用した情報発信に注力した。

今後は研究プロジェクトページの整備を進め、所属研究者が進める研究プロジェクトと、国際研究ネットワーク、開催イベントなどの事業、IGS Project Series 等の成果物とが相互リンクの形で閲覧できるよう工夫を重ねる所存である。

このほか 2022 年度は、初の試みとして葉を 2 種 (A・B) 制作した。葉 A・B それぞれの表面にはウェブサイトの QR コードを記載し、裏面にはジェンダー研究所のキャッチコピーを記載した。ジェンダー研究所の広報メディアと位置づけ、ジェンダー研究所の存在と事業内容を知ってもらうとともに、ジェンダーの研究そのものにも興味関心を持ってもらうきっかけとなることを目指し、国際シンポジウムなど IGS 主催のイベントの参加者や、本学大学院新生や学部生、IGS を訪れる研究者やメディア関係者らに広く配布する。



葉 A (表・裏)



葉 B (表・裏)

葉デザイン：塩飽 晴海

葉カラー写真は本報告書 13 頁参照